

Ⅲ 教育の実施体制について

【教員組織について】

(1) まず専任教員表の例示を参考にして現在の専任教員数を記載して下さい

表Ⅲ－１ 専任教員数 平成 18 年 5 月 1 日現在

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	助教授	講師	計	〔イ〕	〔ロ〕			
幼児教育学科	8	4	7	19	10	—			
美術学科	6	2	1	9	7	—	1		
ビジネス実務学科	6	5	4	15	7	—	1		
(小 計)	20	11	12	43	24		2		
〔ロ〕					—	5			
(合 計)	20	11	12	43	24	5	2	0	

註)〔イ〕は短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイに定める、学科の種類に応じて定める専任教員数

〔ロ〕は短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロに定める、短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数

〔ハ〕は助手以外の者で、教育研究活動に直接従事する教職員

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(①履歴書, ②研究業績書, ③担当授業科目名, ④その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

教員の個人調書は、訪問調査の際にご覧ください。 ◇参考資料No.4「教員の個人調書」

(3) 教育の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

本学は専門分野についての優れた知識及び技術のほか、本学の建学の精神でうたわれている「全人教育」を可能にする「人間力」のある教員を求めている。

任用にあたっては、規定に基づいて、学長、副理事長、三学科長から構成された人事委員会で、昇任についても同メンバーによる教員資格審査委員会で審議され、教授会で諮られた上で理事長が決定することになっている。

◇参考資料No.5「教員任用規程」

◇参考資料No.6「教員昇任に関する規程」

(4) 下記の専任教員年齢構成表の例示を参考にして教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

表Ⅲ－２ 専任教員の年齢構成

平成 18 年 4 月 1 日現在

教員数	年齢ごとの専任教員数（講師以上）						平均年齢	助手等の平均年齢	備考
	70 歳以上	60 ～ 69	50～ 59	40～ 49	30～ 39	29 以下			
43	2	5	19	8	9	0	50.6	24	

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導及び(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記の4つの分野の業務取組み状況にはどのような傾向があるかを短期大学の責任者（以下「学長等」という。）が記述して下さい。その際、過去3ヶ年程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

授業については、実態に即した分かり易い授業を、学生指導については、できる限り学生のいる時間は学校に居て指導を心掛けている教員が多い。教員の平均授業時間は、約13時間である。研究については、各学科の授業に関する研究が多い。ただし、各学科教員間の打合せ、学生の個人指導、その他の校務で、大部分の教員は多忙である。

◇No.7 参考資料「校務分掌」

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか。また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

コンピュータ関係で事務系補助職員2名、英語関係と美術関係で2名の助手がいる。また、助手の中には研究室を与えられていない人もいる。人数、処遇とも今後課題を残している。

【教育環境について】

(1) 次の校地一覧表の例示を参考にして現在の校地面積を記載して下さい。

短期大学部と併設の大学は同一キャンパス内にあり、共用校地の合計は 103,462 m²であり、基準面積をクリアしている。

表Ⅲ-3 校地一覧表〔基準面積 7,600 m²〕 平成 18 年 4 月 1 日現在

名称	所在地	面積 m ²	備考 (主な使用用途, 共用の有無等)
笠間校地 校舎敷地 運動場用地	石川県白山市笠間町 1200	84,951 18,511	金城大学と共用 (金城大学基準面積 8,600 m ²) 短大部+大学 = 16,200 m ²
小計		103,462	
その他用地	石川県金沢市	665	
金城学園白山美術館 白山美術館	石川県白山市吉岡東 108-1	1,978	
合計		106,105	

◇参考資料No.8「全体図，校舎に関する図面」

(2) 校舎について、まず設置基準第 31 条の規定による当該短期大学の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。
さらに校舎の配置図，用途（室名）を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただくこととなります。

短期大学設置基準第 31 条の規定による基準面積は以下のとおりで 6,300 m²である。

学科名称	収容定員	別表第二イ基準	別表第二ロ基準
幼児教育学科	300 名	2,850 m ²	
美術学科	130 名	—	1,650 m ²
ビジネス実務学科	260 名	—	1,800 m ²
合計	690 名	6,300 m ²	

現在の短期大学部の校舎面積は、専用部分が 8,868 m²、併設の大学との共用部分が 2,631 m²で設置基準をクリアしている。なお、基準上校舎面積に参入されないものとして、体育館 2,722 m²、クラブハウス 271 m²等があり、いずれも大学と共用である。

なお、併設している大学（社会福祉学部 収容定員 860 名）の基準面積は、5,156 m²であり、大学、短期大学部を合わせた校舎面積は、17,329 m²である。

◇参考資料No.9「校舎の配置，用途（室名）を示した図面」

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室，マルチメディア室，学内LAN，LL教室及び学生自習室の整備状況（機種，台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。

学生の授業用コンピュータ室（Windows）は3室あり，ビジネス実務学科を中心に他学科も利用している。コンピュータ室の空き時間は少なく，全て授業で使われている場合も多いため，コンピュータ準備室に自習用のパソコンを17台設置している。また，美術学科デザイン棟にも，デザイン学習用のマッキントッシュパソコン20台を設置している。

各コンピュータ室の設置状況は以下のとおりである。

1)Windows パソコン（OSはWindows2000）

- ・第1コンピュータ室：Fujitsu FMV-6400TX2 40台
- ・第2コンピュータ室：Epson Direct Type-MA 40台
- ・第3コンピュータ室：Toshiba Equium5500 40台

2)マッキントッシュ

- ・デザイン室：20台

学内LANは上記のコンピュータ室，教員研究室，事務室，図書館，就職進学指導室などに張り巡らされており，管理は主にネットワーク管理センターの教員2名と事務職員2名で対応している。また，全学生に電子メールアドレス及びパスワードを持たせ，このパスワードが無ければインターネットなどの利用ができないように，セキュリティ面・利用面とも確かな運用に万全を期している。 ◇参考資料No.10「平成18年度前期時間割」

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況，整備計画等を含む）について，その概略を記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

TV，DVDプレーヤー・ビデオデッキについては，教室に常設していないが，各棟それぞれの階に移動式のセットを用意し，授業担当者が必要に応じ自由に使用している。大講義室と中講義室には，プロジェクターとともに常設してある。また，事務室にDVDプレーヤー1台，プロジェクター2台，ノートパソコン1台を保管し，必要に応じて貸出している。そのほか，スライド映写機，オーバーヘッドプロジェクター，スクリーンなどを事務室で保管し貸出している。

学科独自のものとして，幼児教育学科では，幼児・保育指導用の運動器具やマーチングドリル用楽器を備え，特にピアノは学内に40台以上を設置し，授業だけでなく学生が自習したい時にいつでも使用できるようにしている。また，模擬保育室として「ナーサリールーム」を設置し，演習授業に対応している。さらに，乳幼児美術科目を中心に使用している演習棟では，様々な材料や絵具を保管し，教材制作に活用している。着ぐるみや指人形，パネルシアター等を制作するために，ミシンや裁縫セットも備えている。一方，福祉系科目の開講や専攻科福祉専攻の設置に伴い，介護ベッド，オンラインバス，チェアインバス，高齢期疑似体験システムなどの設備・備品，そして調理室を備え，実習授業の用

に供している。

美術学科としては、デッサン用の石膏像や、デザインコース専用のコンピュータ、服飾製作のためのミシン、陶芸用のろくろ、電気窯、そして、各種染料やすくもを発酵させた天然の藍染液を備え、授業で活用している。そのほかに著名な作家の作品なども所蔵している。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等については、訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

訪問調査の際にご案内いたします。

なお、本館2階をつなぐエレベータ1基を設置、本館全トイレをバリアフリーに改装し、障害者の受け入れや衛生管理に対応している。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数、年間図書館予算、購入図書選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただくことになります。

① 基本方針

金城大学図書館（以下図書館という）は、教育・研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金城大学の学生及び教職員の利用に供すると共に、必要な学術情報を提供することを目的とする。

② 管理運営体制

a 管理運営：図書館の管理運営は金城大学組織規定によって選任された館長がこれを統括し、業務は図書館長のもとに図書館職員が担当している。

b 図書委員会：年6回開催、図書選定並びに館運営に関する重要事項を審議している。

図書館長 ┌ 図書館事務職員4名：専任3名（うち、司書資格2名）、嘱託職員1名

└ 図書委員会（社会福祉学部教員5名、短期大学部教員4名選出、

図書館事務職員4名の13人で構成、任期は1年）

③ 施設設備（平成18年1月末現在）

本学の図書館は、1976年に金城短期大学図書館として短大部校舎棟2階に併設された図書館であったが、2000年の本学の四大設置に伴い、総床面積588㎡に拡張され、金城大学図書館と改名された。

a 全体配置図（p.43）

b 所蔵数：70,435冊

図書：69,628冊（和：60,977 洋：8,651）、学術雑誌種数：288（和239：洋49）、

視聴覚資料数：807 新聞：11紙

c 座席数182席

d 情報化の進捗

パソコンによる図書館システム（NALIS）、OPAC（図書検索）検索6台（うち、1台は新聞記事検索用）、ビデオデッキ、DVD・CDプレーヤー5台

④ 購入図書選定、図書廃棄システム等

図書館規定に従って図書委員会で図書選定がされる。この他、学生の希望に沿った図書を選定するため、図書選定委員の設置や利用者図書リクエスト制度がある。

また、図書の廃棄については、図書館収蔵資料の除籍基準に従っている。

⑤ 図書購入予算 図書資料予算 15,000,000円

内訳 図書費：9,000,000円 雑誌費：6,000,000円

以上のことをどのように評価するか議論の余地はあるが、ここでは平成17年12月に実施した「学生への図書館利用アンケート調査」の結果を記しておくことにする。そこには学生の図書館全体への満足度が、「満足」と「やや満足」を合わせて86%の数値が示されている。

現今の課題としては、書庫スペースの確保が最大の課題である。

◇参考資料No.11「図書館規程」

(2) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

① 図書の整備状況（平成18年1月末現在）

短大部の教育研究用に必要な基本的資料数は、短大時代からの所蔵図書が多数あり、おおむね整備されていると考えられる。また、短大部に係わる図書資料の特性として美術系、幼児教育系、ビジネス系に係わる図書資料を多く所蔵している。中でも美術系の作品集、大型本等の貴重図書も少なくない。この外、幼児教育に係わる図書資料や絵本、紙芝居、ピアノピース等の収集や、ビジネス実務学科の情報や留学生に係わる資料も特長の一つである。また、授業の参考図書として指定された図書については、毎年整備している。

図書館の学生利用状況については、入館者数年間31,001人、貸し出し冊数年間11,151冊である。開館日数は190日、平日の開館時間は午前9時～午後7時（12月～3月は午後6時）である。入館者数は1日平均160人程であるが、昼の休憩時の利用者は多い。図書の貸し出し冊数は年々増加しており、職員が応じているレファレンスサービスでは、文献検索の質問や文献の複写の依頼も多い。また視聴覚資料は一日平均5人程度の利用である。

「学生への図書館利用アンケート調査(17年12月実施)」の結果を見ると、学生の半数は月1回以上図書館を利用しており、その利用目的の72%が授業の知識、情報を得るためと回答している。

以上のことから、図書館の利用状況はおおむね評価される。しかし、図書館利用回数については週1回以上の利用者が学生全体の22%ではまだまだ活発な利用とは言えない。

(3) 図書館等からの学内外への情報発信，他の図書館等との連携など，現在の図書館活動について，図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

学術情報の処理・提供システムとして，書誌・所蔵資料の検索のため OPAC を構築しており，国立情報学研究所のオンライン情報検索サービスにも参加している。

本学所蔵の図書資料の検索は，OPAC により瞬時にして可能であり，Webcat(国立情報学研究所の総合目録データベース検索システム)との横断検索サービスも行っている。また，学内のパソコン端末でどこからでもアクセスできるので利用者も多い。

本学の場合，国立情報学研究所のネットワーク参加と同時に，私立大学図書館協議会に参加し相互協力事業を行っている。当然のことながら国立国会図書館の文献複写も可能であり，大学図書館協力校の相互利用にともない，該当の大学生の閲覧等に応じている。また，「いしかわシティカレッジ」の受講生の図書館利用も可能である。

学術情報の受信機能は，普通のレベルまでに近づいているが，発信機能としては，本学所蔵資料の一部に遡及登録作業の遅れがあるため，NACSIS-ILL（図書館相互利用）システムへの参加は十分ではない。今後この状況を打開するとともに，図書館相互利用のシステムを最大限に利用して，学術情報資料の収集の補完を行っていかなければならない。

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に，例えば外国人教員の採用，授業の公開，学習評価活動など，努力していることがあれば記述して下さい。

- ・ 幼児教育学科では，ピアノの授業で，1クラスの学生全員が，同時間にできるだけマンツーマンの指導が受けることができるように，外部からの講師を含む10数名の教員は一斉にピアノ個人指導室に入る。
- ・ ビジネス実務学科では，学科の全学生に「企業研究Ⅰ・Ⅱ」の時間に，外部講師を招いて受講させる。また，コースによって長短はあるが，全コースで学生がインターンシップに参加し企業体験できるシステムになっている。
- ・ 美術学科では，社会的基準による審査と学生のプレゼンテーション能力の育成を目的に，外部講師を招いて，公開オーディションを定期的で開催している。